

こころのはな

認知症についての学習



(家族愛、家庭生活の充実)

6年生は10月10日(木)、15日(火)に、総合的な学習の時間で、認知症について理解を深める学習をしました。認知症サポートグループ「いちご会」の方々、看護大学の中道先生や大学生をお招きし、「認知症はどのような病気か」「認知症の人ができること、できないこと、手助けすればできること」について、みんなで意見を交流しました。誰でも歳を重ねればできなくなっていくことはあります。これからの社会を生きていく上で、高齢者の方々を敬愛し、思いやりを持って行動しようとする態度を育てることを目標に学習を進めています。この学習をきっかけとし、自分の家族に対して、さらに温かい関わりがもてるようになってほしいと思います。



道徳 6年「義足の聖火ランナー」

(よりよく生きる喜びについて)

資料「義足の聖火ランナー」をもとに、『クリス・ムーンさんは、事故で片手、片足を失ったのに、どうして走り続けるのか』について、みんなで考えました。

「わたしは手足を失っても、昔と何も変わっちゃいない。わたしはかわいそうな人ではないし、少しも落ちこんだりしていない。」「限界にちょう戦する自分の姿を見せることで、基金をつのり、地雷を一つでも減らすことができれば、自分の人生は意味があるものだと思う。」という、クリス・ムーンさんの言葉は、子ども達の胸を打ったのではないのでしょうか。

障害があっても、クリス・ムーンさんのように諦めずにがんばっている人のことを知ると、平和な国に生きる私たちは、どのような生き方をしていくことが大切なのかについて考えさせられます。将来、困っている人に素直に手を差し伸べられる、そんな優しい子ども達に育ってくれることを願っています。

ふり返りより

- ・クリス・ムーンさんの生き方はすごいなと感じました。自分ももっとがんばれるなと思いました。
- ・わたしはこれから、困っている人がいたら進んで助けてあげられる人になりたいと思いました。
- ・世界には、まだまだたくさんの地雷が埋まっていることを知りました。早くその地雷が全部なくなる日が来るといいなと思います。

